お気楽領主の楽しい領地防衛

okiraku ryousyu no tanoshii ryouchibouei

～生産系魔術で名もなき村を最強の城塞都市に～

Sou Akaike
赤池宗
illustration 転

書き下ろしスペシャルストーリー

「セアト村のちびっこたち」

OVERLAP

気が付けば、我がセアト村も五千人を超える人口となっていた。そうなってくると、働くことのできないくらいの子供なども増えてくる。簡単なものだが学校もあるので、学校がお休みの日はセアト村内も賑(にぎ)やかな声が聞こえてくるようになっていた。

「ヴァン様ーっ！」

「ラダプリオラちゃんが呼んでまーす！」

「はーい」

子供達に呼ばれて、アルテやティル、カムシンと一緒に笑いながら湖に向かう。周りに子供達が集まり、まるで幼稚園のお散歩状態である。

僕が先頭で歩いているのだが、すれ違う村の住民達が

揃(そろ)って穏やかな微笑(ほほえ)みを浮かべて見送っている。
「ヴァン様、お出かけですか？」
「皆で楽しそうですねぇ」
「はい。ちょっと湖まで行ってきます」
すれ違う人達に挨拶(あいさつ)をしながら通り過ぎていき、やっと湖までたどり着いた。湖は広いのに、アプカルル達が入り口側に近づいている。どうしたのかと思ったら、アプカルルの子供が十五人ほど集合しているようだった。
「きた！」
「ラダプリオラちゃん、きたよ！」
こちらの姿を見て、アプカルル達も騒(さわ)ぎ出す。どうしたのかと思っていたら、奥からラダプリオラが真剣な顔

で泳いできた。湖面に肩から上を出して悠々(ゆうゆう)とこちらに向かってきたラダプリオラは、不敵(ふてき)な笑みを浮かべてこちらを指差す。

「勝負！」

「え？」

突然何を言い出すのかと思ったら、その言葉にセアト村の子供達も両手を挙げて喜んだ。

「わーい！」

「勝負だ！」

「ん？」

どうやら、状況を理解できていないのは僕達だけらしい。アルテやティル、カムシンと顔を見合わせるが、誰

も答えは持ち合わせていないようだった。

「勝負は競争！　先に堀を一周！　最初に戻って来た人が族長！」

「わーっ！」

混乱する僕達を放置して、ラダプリオラが高々とルール説明をしている。それに、アプカルルの子たちもセアト村の子たちも真剣な顔で頷いていた。

どうやら、最初から競争をするつもりで呼ばれたらしい。

「……仕方ないね。やってやろうじゃないの」

「勝負なら負けられません」

僕とカムシンが屈伸運動をしながら呟く。静かな闘志

を燃やす僕達を見て、アルテとティルは笑いながら地面を指差した。

「それでは、私たちは誰が一番か判定をしますね。せっかくなので、優勝者には美味しい果物を準備しましょう」

「焼き菓子もほしい」

「はい、お任せください！」

そっとお願いをしてみると、ティルは苦笑しながら了承してくれた。アルテも困ったように笑っている。

「それじゃ、はじめ！」

その時、ラダプリオラがスタートの合図をした。準備の掛け声もないことに驚き、振り返る。しかし、準備ができていなかったのは僕達だけだったようだ。

「わーっ！」
「いくぞーっ！」
走り出すセアト村の子供達。アプカルルの子たちも同様に堀まで続く水路を泳ぎ出した。驚くべきことに、良い勝負である。
「私が一番」
「あれ？　ラダプリオラちゃんは……」
まだスタートしてないの？　そう言おうと思った瞬間、ラダプリオラは不敵な笑みを浮かべてこちらを一瞥（いちべつ）し、泳ぎ出す。まさに魚のようなリオラに、目を丸くして驚いた。
「ま、負けられないね」

「我々もいきましょう！」
遅れたけど、僕とカムシンも慌てて走り出す。騎士の訓練を受けているだけに、流石に負けられない。
「お？　競争ですか？」
「ヴァン様！　頑張ってくださーい！」
堀は村の外周を流れているのだが、何故か城壁の上から声を掛けられる。
「はーいっ！」
手を振りながら、次々に子供達を抜いていく。ふふふ、この体力を見よ。
そんなことを思いながら、正門を通り過ぎ、後半戦に入る。気が付けば周りにはセアト村の子が一人とアプカ

ルルの子が一人。そして、う様相になっていた。
「も、もうだめ……」
「追いつけない……」
そして、ついに残りはカムシンとラダプリオラだけになる。むむむ。体力もあるな、二人とも。
「おお、帰ってきたぞ！」
「頑張れーっ！」
何故か、湖の周りには村人たちが大勢集まっていた。拍手喝采（かっさい）で迎えられて、ちょっと驚きながらスタート地点に戻る。
「一番は私⁉」

「いえ、俺です！」

ほぼ同時にラダプリオラとカムシンがゴールした。

振り返って一位はどちらか尋ねる二人。気が付けば、他の子供達も遅れてやってきていた。

それを見て、地面に座り込んで息を吐く。

「……皆、本当に元気だよね」

どこの世界でも、ちびっこは元気である。



お気楽領主の楽しい領地防衛

～生産系魔術で名もなき村を最強の城塞都市に～

書き下ろしスペシャルストーリー

「セアト村のちびっこたち」

赤池 宗　イラスト：転

株式会社オーバーラップ

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などをすることは、固くお断り致します。

©赤池 宗／オーバーラップ　イラスト：転